



かすがい
謎 日 誌

2012/夏号
vol. 4



〒610-0342
京田辺市松井山川1-7
tel 0774-62-9566
http://www.po-labo.com
(株)P.O.ラボ

「自称」編集長の岡です

今回は、なかなかお目にかかれぬ乗り物をご紹介したいと思います。
あるとき、おもしろい乗り物が会社に来ました。その名も「WCV」(ホイールチェアビークル)。車いすのまま乗り込み、そのままバイクのように発進できてしまうという画期的な乗り物なんです。話には聞いていましたが、実際に目の当たりにすると、
「おお！カッコいい！」
車いすのまま乗り込む姿は、正にパイルダーオン！！
そして、いざ走ってみると、
「風が気持ちいい！！」

このとき、車より手軽に乗り込み、こんなに気持ちよく走れるこの子は、きっと車いす利用者の方の役に立ち、生活をもっと楽しくするに違いないと思いました。そのためにはまず、日常で車いすを使う人、使わない人も含めて世の中にもっともっと広め、認知してもらうことが必要だと考え、その一躍を担おうと、デモ機の入荷を決めました。
今ではデモ機も会社に届き、もちろん試乗も承っております。
今後ともWCV(ホイールチェアビークル)をよろしく願っています。



回復期リハビリテーション学会



京都国際会館なんて、緊張します。

京都国際会館で行われた、日本リハビリテーション学会に出展しました。いわゆる学会といわれるものなので、一般の方というよりは、車いす利用者に関わる医療関係者の方に知っていただく機会となりました。



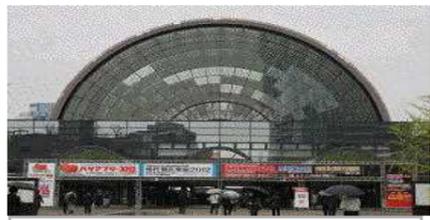
搬入の時、意気揚々と入場しようとしたところ、建物の管理上、場内でWCVを押してはダメと注意を受けてしまいました。結局、仕方なくというにはあまりにも酷ですが、持ち上げて搬入したそうです。ということは当然展示中も動かすことはできず、展示スペースの中でじっとしていました。まあ、事前に分かってはいたのですが、躍動している姿を見てほしかったですね。



福祉用具とは一線を画する乗り物なので、学会という場では、「なんだこれは？」という感じもあったようです。それでもどういふものかが分かると、興味をもって熱心に質問をしてくださる方や、「自分の患者さんに紹介したい」という方もおられました。

2012 バリアフリー展

去る4月19日木曜日から21日土曜日まで大阪のインテックスにて開催されましたバリアフリー展に製造元メーカーの展示のお手伝いとして弊社のデモ機と一緒に参加しました。三日間で10万人近くの来場者があり、多くの方々に



インテックス大阪行われ、来場者数は10万人近くにも上ったそうです。

WCVを知っていただくことができました。展示内容は、NEDO(経産省助成金)ブースに1台とYDS(製造メーカー)ブースに1台及び屋外の試乗コーナーに2台というものでした。二日目の金曜日などは小雨のぱらつく生憎の空模様でしたが、試乗コーナーでは多くの方が多少濡れることは厭わず楽しそうに試乗されていました。また、最初にお声がけし



試乗して、購入を決めた方もおられました

ても遠慮され、なかなか試乗しようとされなかった方でもせっかくですし如何ですかと一押しさせていただくとお乗りになり笑顔になっておられました。改めて思ったのですが、本当に乗られた方は全員が笑顔になられますので乗っていただかないと判らないなあと思いました。ただ、あまりにも多くの方が試乗コーナーに来ておられた時がありメッチャ待つて貰ったりと多少の不手際があり申し訳なかったです。



皆さん興味津々のご様子

なかでも参考出品させていただいていました頸髄損傷用の WCV は非常に盛況で WCV

の新たな可能性を感じました。また、我々の思惑とは違い思ったよりも年配の方が興味を持たれていました。試乗された方にお訊きすると「若いときは体力も有り車を運転するときは運転席に移乗後、車いすを引き上げ後部座席に放り込むことが可能であったが、今は力も衰えかなりしんどいから車いすのまま乗れる WCV は魅力的だと思った。」と仰っていました。同じような理由かもしれないのですが、多くの女性の方からも関心を持っていただきました。ただし、もっとカワイイ感じに作り替えることは可能かと言う声も沢山いただきましたが（もちろん「できます！」とお答えしました。）

試乗された中には、その場で購入を決められた方もおられました。

NHK などのマスコミの取材も多く、もっと認知度があったのか（当たり前なものならそんなに取材受けない）と思っていたのですが、まだまだ努力しないとと思いました。

試乗後のアンケートでは、WCV については好評をいただいたのですが、個人の問題点として駐車場がないので購入するのは難しいと言う方が結構おられ、悩ましい問題だなあと感じました。



社員ののぞき穴 『パラリンピック競技ゴールボールに 夢中…だった日々』 大谷 巧

みなさん、こんにちは。入社して5ヶ月が経ち、少しずつ関西で働くことに慣れてきました（『銚通信 Vol.3』にて新入社員として紹介されました。）

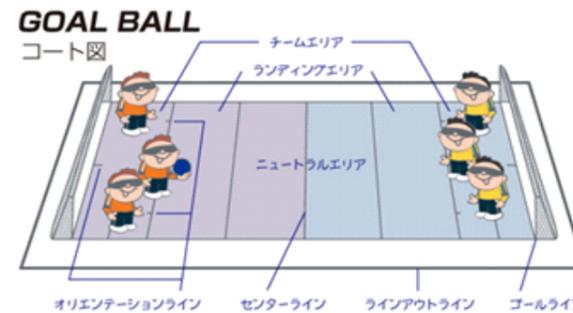
さて、私たちは『義肢装具士』と呼ばれる国家資格を所有してしまし、その資格のおかげで普段みなさんと病院でお会いし、型取りや装具の装着等行うことができます。『義肢装具士』になるためには、3年もしくは4年制の専門学校に通い、義足や装具の製作技術とそれに必要な医学的知識を学ぶことが必要となります。今日は、その専門学校での思い出について少しお話ししたいと思います。

私は大学卒業後、埼玉にある『国立障害者リハビリテーションセンター学院（以下、国リハ）』という学校に入学しました。電車で1駅区間にまたがる広大な土地には、障害者に関する施設がさまざま。なかでも一番興味を覚えたのが、障害者スポーツへの取り組みでした。野球場から陸上トラック、大きな体育館に弓道場まで、たくさんの障害者が往来する施設なだけに、たくさんのスポーツと出会い、取り組むことのできる環境がそろっていたと思います。

そんな貴重な環境にいたおかげで、私も車いすバスケや障害者野球などさまざまなスポーツに関わることができました。その中で私が最も熱中したのが、"ゴールボール"という競技。"ゴールボール"と聞いてピンとくる方はほとんどいないと思いますが、実はパラリンピック競技として認可されているスポーツなんです！国リハには日本代表のコーチがいたので、北京パラリ

ンピック代表合宿の手伝いなど、第一線の選手たちと関わることが出来、どんどん引き込まれていきました。

"ゴールボール"は視覚障害の方に発案された競技です。簡単に説明しますと、バレーボールと同じ広さのコートに、両端にサッカーゴールが置かれています。各チーム3人ずつがコートに立ち、バスケットボールより少し大きく、鈴の入ったボールを転がし合ってゴール数を競い合



います。選手は"アイシェード"と呼ばれる目隠しをして完全に視覚を妨げた状態で、鈴の音を聞き分けて相手のゴールを阻止します。どこにいるのかわからなくなるのでは？と思うかもしれませんが、コートラインには紐が埋め込まれているので、それを足の裏や指先で感じ取って自分の位置を把握しています。

先ほど、ボールを転がし合うと言いましたが、実際はそんな生やさしいものではありません。筋肉隆々の選手が投げるボールは"転がる"とい



猛スピードのボールを体を張って止めます。見てる方が怖い・・・

うより"地面を這って"襲いかかってきます。スピードも、投げた瞬間のかすかな鈴の音を聞き分けて飛び込まなくては間に

合いません。しかも、聞き分けられたとして、ボールのくる方向に飛び込んで全身で受け止めるのですが、その衝撃もすさまじいもので、いつも体中あざだらけでした。

目が見えないからスローな競技だと思われがちですが、本当に見えているんじゃないかと思える動き！私も健常者でチームを組んで全国大会を目指しましたが、関東大会で敗退。もちろんできる限りの努力をして挑んだのですが、みなさんそれ以上の努力をしていました。

さて、今年の夏はいよいよロンドンオリンピック&パラリンピック開催ですね。ゴールボール女子は北京大会に続き出場を決めています。なかなか会うことのない競技ではあると思いますが、これをきっかけに応援して頂ければ、知るきっかけにだけでもなれば嬉しい限りです！

日本ゴールボール協会HP : <http://www.jgba.jp/>
国立障害者リハビリテーションセンターHP : <http://www.rehab.go.jp/>

